

津幡町のみなさまへ

河合谷小保護者有志の会

河合谷小閉校「待った！」の臨時議会

10 月 31 日の津幡町臨時議会では、河合谷小の閉校理由として、小規模校での教育が否定されました。

そんなことないです。どうか保護者の声を聞いてください。

報道でご存知の通り、4 対 13 という結果で閉校の撤回は否決されました。報道で町長は「苦渋の選択」だったと述べています。本当に「苦渋の選択」だったのでしょうか？議会を傍聴された方や議会の様子を聞いた方は町長の言葉を受け入れることはできないでしょう。

閉校賛成議員の少人数学級非難の数々の言葉。何を根拠にそんな言葉を？文科省から資料がでているのでしょうか？県内はもちろん、全国の小規模校の教育関係者、PTA を前にして同じ発言ができるのでしょうか？更にある議員は「私が河合谷の校区に住んでいても校区を移して子どもは河合谷小へは通わせません。」とまでいいました。私は唖然としました。こんな発言が飛び交う議会で、これが町長のおっしゃる「苦渋の選択」なのでしょうか？私はバカにされている感じがしてなりません。あきらめが悪いといわれるかもしれませんが、数多く寄せられた署名の意味を重く受け止め頑張っていきたいと思います。

反対意見の中心は、少人数校の教育内容でしたが、実際に自分の目で見てからの意見ではなかったのでは？

責任ある議員の職務をあまりにも軽く考えていませんか？

先日行われた津幡町健勝マラソンで、1 年生から出場できる種目があったので、2 人の一年生も出場しました。ところが、1 人はスタート直後転倒しましたが、すぐ起き上がり、走り出し、最後まで走りきりました。もう一人の子は誘導員の間違いで 1 年生なのに、1. 85 キロ走りました。2 人ともあきらめませんでした。

議員さんがいう根性が無いとか、忍耐力が育たないとか、そんなことを言われるような覚えはないと感じた出来事でした。

河合谷小学校は小規模特認校だから児童の数が少ないことは承知していましたが、閉校の理由にあげられるとは？

いったい何が起こったのでしょうか。

いったい何名いればよいのでしょうか。

特認校としての評価をまったく知らされていませんし、教育委員会にたずねても「ない」と言われました。



本会議中のある議員の態度は目に余るものがあり、笑いながらの私語、いすに反り返って座り、指で机をたたき早く終われといわんばかりの態度、とても当事者がどんな気持ちで直接請求をしたかということを真摯に議論しようというものではありませんでした。自分の子供達の教育・将来について果たしてこの人たちの何人が、議論する資格があるのだろうとさえ思いました。

河合谷小学校は津幡町の特別認定校です。小規模校で、町が始めた他の市町村に自慢できるはずの制度です。自分たちで作ったすばらしい制度を積極的に運用することなく（認知度を高める努力）、その検証もせず、やめてしまう。そこには子供が通っています。少人数だから、どうでもいいのでしょうか。私たちの周りには、うちの子供通わせたかったんだよねという言葉があります。

特別認定校としての河合谷小学校、お金？耐震問題？子供達の健全な成長が出来ない環境？この中に本当の理由があるのでしょうか。

振り回されて犠牲になっているのは、子供達です。親は、子供にとって何がいいかを真剣に考えて、考えて河合谷を選んで通わせました。津幡町には学校を選べる良い制度がある、ましてや自分の子供には合っていて、小規模校ならではの経験を体験できると信じて入学させ、すごしてきました。大正解でした。1年生の秋に6年生まで通いたいなあと言った息子の言葉が今でも忘れられません。閉校問題がでる直前のことでした。

町議の皆様は、どのようなポリシーを持って職務を遂行されているのでしょうか？



本議会中において、議員の皆さんは、委員会、全員協議会と長時間にわたって討議され深く感謝いたします。

ですが、閉校反対の議員の方々は議場入場ギリギリまでついやして、まとめたメモを壇上で整理しながら話しておられましたが、閉校賛成の議員の方々は壇上でキチンととじられた原稿を読み上げられていらっしやいました。同じ時間しかないのにどうやってプリントしてとじた原稿を作成なさったのでしょうか？長時間にわたる委員会、全員協議会は何のためだったのでしょうか？

本議会で読み上げた原稿を公開していただけませんか？

耐震構造建設を待つ学校は長い列をつくっています。1年や2年で工事は完了しないのに、最後尾の学校を切り捨てる決断もいったいどこからやってきたのでしょうか。ましてや河合谷小の耐震建設費にと、多額の寄附金の申し入れが数件あったのに、この申し入れに対する議会のコメントはありませんでした。

子どもたちは元気に河合谷小へ通っています。本当にこの学校が好きなのです。津幡町は河合谷小学校を存続する方法をいっしょに考えてください。お願いします。

ある町議は、もし河合谷に住んでいたら住所を移して子どもを別の学校に通わせると言いました。私は自宅が既にあるので河合谷には住めないけど、議員の発言に、正直くやしい気持ちでいっぱいです。子どもが通う河合谷地区の方々には、本当にいろいろお世話いただき、ご協力いただき感謝しています。子どもはお年寄りともふれあいます。親もいろいろな体験ができます。のびのびと子どもが成長していく姿を見て、誇らしく思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

議会を傍聴した感想は、町議・行政共に当事者が直接請求をしたことを軽視している姿勢がはっきり見えたことと、当事者をまったく見ず、とにかく議事を通すことだけしか考えていないということでした。

閉校賛成の議員は、一様に大規模校での切磋琢磨の経験の必要性、社会性・自主性がはぐくまれないなどと個人の考え・感想を述べるに過ぎませんでした。挙句の果てには、自分の子供は通わせたくない・親は子供の将来を考えているのかなどと。しかしそれは彼らがいかにこの問題に対して当事者の意見を聞いたり実際に見たりしていないことと、公正に検証したり考えたりしていないことの現われでした。子供達も見ず、保護者の考え方も理解せず、住民の声を否定するしか出来ないのです。さもそれが一般論の正しい意見かのように述べるだけ。あまりにも稚拙でした。

閉校反対の議員は、もう一度、はじめから議論しなませんか、と述べてくださいました。学校の歴史、子供達の様子、地域での必要性、大規模校にはない小規模校だからこそその良いところをさまざまな角度からです。この問題に真摯に取り組んでくださっているからこそその意見でした。

河合谷小ってどんなところ？ 児童の声

・紙飛行機で遊べる ・プールが広い ・稲刈りができる ・イワナつかみができる ・水生生物調査ができる ・ビオトープがある ・パソコンができる ・自然がいっぱい ・段々になっている田んぼがある ・行事がたくさん ・虫がたくさん ・記念物がある ・大滝がある ・ふれあいセンターがある ・外で楽しく遊べる ・昆虫がたくさんいる ・給食がとてもおいしい ・運動場が広い ・プールが2つある ・河合谷だけしかできない行事がある ・しっかり勉強できる ・他の学校ではできないことがある ・たくさんふれあえる ・体育館やプールでおもいっきり遊べる など

「ぶなっこ新聞」（平成 19 年度壁新聞コンクール出品作品）より

河合谷小保護者会主催 教育講演会のお知らせ

日時：平成 19 年 12 月 16 日（日）午後 1 時 30 分開場 午後 2 時～4 時

場所：河合谷ふれあいセンター

講師：金森俊朗先生（いしかわ県民教育文化センター所長）

どなたでも聴講できます。参加無料

平成 19 年度前期ぶなっこ文集 児童の作文から

マラソン大会

3 時間目に、学校のうらで、みんなと、マラソン大会をしました。なんびょうタイムがちぢむかかんがえて、まっていた。ピストルがなりました。おにいちやんにまけないようにはしろうとおもってはしっていました。とちゅうで歩こうとおもったけど〇〇ちゃんにぬかされてしまうからがんばろうとおもいました。1 いになりたいとおもってはしっていました。れんしゅうと同じ 1 いになりました。1 いになってうれしかったです。タイムは、5 分 9 びょうになりました。この前より 6 びょうちぢんだのでよかったです。おかあさんがいたからいつもよりがんばれました。

さわらびさい

げきはっぴょうをしました。きんちょうしたけどうまくできました。パパとママのほっぺたがまっかでした。わらいすぎだとおもいました。さいごに、せいかつはっぴょうをしました。おきやくさんがたくさんいたのできんちょうしました。リースをみせたらはくしゅをくれました。うれしかったです。さわらびさいはおもいでにのこりました。

楽しかったさわらび祭

さわらび祭がありました。お父さんやお母さんのアルゴリズム体そうもおもしろかったです。おとうさんのサラリーマン体そうもとってもおもしろかったです。みんな、夜おそくまで、よくがんばってれん習をしたなと思いました。プログラムをいろんな人が使ってくれたし、げきのれん習もしといてばかりできたし、音楽発表も上手にできたし、いすもピカピカにしてワックスもかけてそうじをしたのでいろんな人が来てくれたと思います。目あてどおり「みんなで力を合わせて思い出にのこるさわらび祭にしよう」にできてうれしかったです。みんなに聞いてもらったり見てもらったのでとってもうれしかったです。「とっても思い出にのこった。」と思います。28日にいろんな人がいっぱいあつまっても楽しいさわらび祭にできたと思いました。れん習をたくさんがんばってよかったと思いました。

器械運動交かん会

6月6日に宇ノ気小学校で、器械運動交かん会がありました。ぼくは、とび箱に出場しました。河合谷小学校を出発するとき、5・6年生から「がんばってきてね。」「金賞とってきてね。」とか、はげましてもらいました。そして、手紙をもらいました。とてもやるきがでました。本番でぼくの番になりました。2回目は、ちゃんとできました。カードをドキドキしながら取りに行き、そっとカードを見ると、なんと金賞になっていました。ぼくは思わず、「やったー。」と、さけびました。金賞をとれたのと、〇〇さんの金賞を受けつぐことができたのでうれしかったです。帰りのバスが学校に着くと、ぼくは、走って5・6年生に金賞を取ったのをほうこくしました。すると、「よかったね、やったね。」と言ってくれました。家に帰ってから「金賞を取ったよ。」と大きな声で言いました。家の人はいうれしそうでした。来年とび箱をする人が、ぼくの金賞を受けついでほしいです。

郡市サッカー交歓会

郡市サッカー交歓会がありました。刈安小学校と合同練習をしてきました。今年も、刈安小学校と合同チームで試合にでます。練習をいっぱいして、いよいよ本番の日になりました。1回戦は、笠野小としました。ぼくは、前半始まってすぐぼくがゴールしました。うれしくてたまりませんでした。みんなの力でゴール前までボールをもってきてくれたおかげです。次に、津幡小Bと試合をしました。ぼくが出るのは後半で、前半は、どんどん入れられていきました。後半にぼくが出ました。するとなんとまたぼくがゴールしました。ぼくは、これもみんなゴール前までボールを、持ってきてくれたおかげです。サッカー交歓会では、津幡小Bと笠野には1点入れることができて、笠野では、同点で引き分けでした。約束の1点じゃなく、2点も入れることができて、とてもうれしかったです。